

多元横浜読書会

24-54-1034

清水 滝(ひさし)

<今回>3492回目 2024年52月205日(月)14時~17時 6021会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p562510、結び両者は対等位置 より

<前回>348回14目(24-54-629)出席者89名

資料1) ~~(2-3-1)~~第3479回(24-44-2229)のまとめ(清水)

資料2) 日本の名のおこり清水、百済人祢氏の墓碑銘(気賀沢、岩田、清水)

資料3) ~~隅田八幡神社鏡銘(古田、榛葉)~~

資料4) ~~朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳(高木)~~

A 報告 前回、多元横浜読書会の余剰金(3月末)23151円のうち、2万円を本部「多元の会」に2023年度会計として寄付する了解を仰ぎましたが、よく考えてみれば、私清水が体調不良で休会していた時の会費の余剰金でもあり、独断で判断したのは、会を私物化していたのではないかと、反省をしました。ただ多元の会の分科会のような位置づけで発足し、活動していた経緯もあり、多元の他の定例会(第2, 4日曜日)は収支を本部の予算、決算に報告しているのに対して、発足当時、非会員にも広く参加してもらいたい主旨で、活動を始めたので、自由に独立に運営させてもらっていたので、当時から金銭的な報告はしていませんでした。については今回2万円の寄付は改めて認めていただき、当分の間会費は赤字になるまで不要として運営させていただきたく、お願いいたします。(現在残高4501円)金曜webで服部氏が藤原不平等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得性が高い発表であった。私は「多胡碑」に不平等の名前が出ていたと質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不平等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧な紹介を受けた。「羊」は周囲が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位(第3位)の不平等の名を出したのは、中央政界で最大の実力者と評価されていたのではないかと意味で質問した。

書式変更: インデント: 最初の行: 4 字

B資料 2) 日本の名の起り 郷土誌への投稿原稿として、まとめていたもの。郷土誌の制約から、一般歴史好きに合わせたテーマにしたつもりでしたが、過程で質問が多く出たため、結果的には参考以下の掲載は取りやめた。質問の一部は白村江の敗戦はわかるが占領軍が近畿まで来たのか、駐留軍ではいけないか。結論は旧唐書のがわかりやすい。日の本なのですねという事になった。古田説の名はわかっていたが、本はほとんど読まれていないのが実情。料-2)その席上、配布を受けた、「百済祢軍墓碑銘」の解読状況が解説されていたので紹介した。発見当

書式変更: インデント: 左 0.16 字, 最初の行: 0 字

時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。が祢軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀に

書式変更: フォント: 太字

も名前が出ている。弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。660年百済が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級將軍として、活躍した。出所は北京の古物商から、拓本として出てきたもの、解読の様子が書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した。朝鮮の軍將が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命されていたのではないかと推定される。封禪の儀の倭国酋長は誰であったか、サチヤマか。

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

3) 榛葉氏より、隅田八幡神社の順佛画像鏡の解読の原史料として配布された。左文、読み方などの参考になる。

~~皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。丁度今、読書している最中である。~~

~~4)高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井について岩戸山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は何故「磐井継体戦争はなかった」論に変更されたか、調べるようになった。~~

~~6~~

読書 朝日文庫版:p558506、邪馬壹国の領域9行目、なお井上光貞は から

~~(1)——1)女王国の領域 都城の範囲は隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日十を八月十日の意味に採った。~~

~~理由は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之大中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「泰」である。①字形判定—左右対称に近い。奉か泰の左文か、直後の「遺」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)②対等の論理、従来説は大玉・男弟玉—天皇、斯麻を配下の人物に当てていた。③「遺」の用例を多数出している。遺(使者)+敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健自氏は念長寿を年長奉と判読して—を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遺の下に来る文例を上げた。西は室見川、東是那珂川、御笠川、現在の福岡市、春日市(大宰府を含む)北は不弥国と博多湾。~~

~~2)全域戸数7万の領域は筑紫国の原型と大きく重なり合う。という可能性。~~

~~3)山門の地名問題 ①筑後川下流域の山門郡②肥後の山門(山の入り口)①は川の入り口の意味から、山は地形上の山ではなく、政治領としての山国ではないか~~

~~4)邪馬壹国は山倭国、倭国を代表する山国という意味で、西北の入り口は室見川、河口の(下)山門、南方の入り口は筑後の山門ではないか、戸数7万は相当大きい。~~

~~5)遷都論 前2世紀より7世紀の間、どう移っていったのか、①1世紀は志賀島の金印当時から3世紀の邪馬壹国頃までは博多湾岸(大宰府付近を含む)②5世紀末は太宰府南方の基肆城(貴国、百濟三史)百濟紀(367~476年)貴国、貴倭女王③6世紀初頭の磐井は筑後の八女市に近い、岩戸山古墳の近傍。④石人山古墳、人形原の古墳群、壁画古墳、豊後の京都郡、京都市、宮崎県の都城とその古墳群(西都原)~~

~~6)読者からの指摘、批判、激励。前著「邪馬台国はなかった」に対する批判指摘激励が研究の支えになっている。例えば、狗奴国の位置、戸数7万の領域、南米大陸に触れているのに、瀬戸内海領域の問題。~~

~~—2024—2—5(月)—14時から17時—601会議室~~

~~——2—19(月)—14時から17時—602会議室5—6—3(月)—14時から17時—601会議室~~

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 mm

書式変更: インデント: 左: 6.3 mm